平成28年度第3回 三重県伊勢志摩サミット推進本部会議 概要

- 1 開催日時:平成28年6月2日(木)9:00~9:20
- 2 開催場所:プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要:以下のとおり(議題提出部局説明・回答、意見・質問)

事項1 伊勢志摩サミット開催報告(速報)について

(1)G7サミットの日程·成果文書【資料1】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料1により説明) (質疑なし)

(2)配偶者プログラム【資料2】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料2により説明) (質疑なし)

(3)三重情報館【資料3】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料3により説明) (質疑なし)

(4)各国首脳等と県民との交流~「世界との絆づ(リ」~【資料4】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料4により説明)

(5)県産食材等の採用実績【資料5】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料5により説明) (質疑なし)

(6)贈呈品等【資料6】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料6により説明) (質疑なし)

(7)県民参加等の実績【資料7】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料7により説明) (質疑なし)

事項2 各委員会、各部局からの報告

(1)三重県伊勢志摩サミット防災・危機対策委員会の対応結果について (防災対策部)【資料8 - 1】

福井防災対策部長(資料8-1により説明)

消防特別警戒について、5月24日から5月29日までを警戒期間とし、警戒体制は過去最大の規模であった。

警戒期間中に部隊が出動した救急案件は8件あったが、首脳クラスの救急搬送はなく、傷病者の症状はいずれも中等症又は軽傷であり、特に大きな問題はなかった。 DONET の状況については、開発に中心的な役割を果たした専門家に県庁内に待

機してもらい、システムの監視や指導をいただいた。 (質疑なし)

(2)三重県伊勢志摩サミット保健·医療対策委員会の取組結果について (健康福祉部)【資料8-2】

伊藤健康福祉部長(資料8-2により説明)

5月25日から28日の開催期間中、24時間体制で情報収集等を図った。食中毒・感染症の発生はなく、毒物劇物取扱施設・水道施設の異常もなかった。

期間中報告された救急患者数は63名であったが、首脳クラスの患者は発生しなかった。

(質疑なし)

事項3 伊勢志摩サミット終了後の取組について(伊勢志摩サミット推進局)【資料9】

佐々木副参事【サミット総務課】(資料9により説明)

西城局長

引き続きご協力をお願いしたい。

(質疑なし)

(その他:「認知症サミット in Mie」について)

伊藤健康福祉部長

サミット開催を契機に本県で認知症サミットを三重大学を中心とした実行委員会により開催する。アジアを中心とした参加者を予定しており、本県のものづくり技術の介護への応用等、アジアを中心に情報発信を行ってまいりたい。

(全体を通して)

鈴木知事

- ・実務に携わった職員だけでな〈、サミット推進局への応援で職員が抜けた部分をカバーして〈れた職員のおかげでサミットが成功裏に終わった。
- ・ステークホルダー、カウンターパートたる各団体、企業にもご協力をいただいたので、 すでにサミット推進局が挨拶回りを始めているが、お礼を徹底することが次の県政へ のご協力につながる。各部局も、事業者からどのような協賛・応援があったのかは、サ ミット推進局に確認するようにするなどして、お礼に行って欲しい。
- ・資料7には、配偶者プログラムのコーヒータイムにおいて、障がい者の方からのシフォンケーキやサブレが出たことが触れられていないので、記述すること。障がい者の方のこれまでの努力が結実し、自信につながる機会になった。今後の障がい者施策につなげて欲しい。
- ・海外プレスツアー等を通じて得た、海外メディアの反応を共有する仕組みづくりをすること。メディアの反応等を共有し、サミット推進局だけでなく、関係部局全体で取り組んで欲しい。

・今後の計画策定や国への提案等の内容に、サミットの成果を具体的に活かすようにすること。思考回路が従来どおりにならないように、サミットを契機として行政としても進化する必要がある。そのことが経済効果だけではない三重県の効果につながっていくと考える。サミットの効果は、経済効果だけでなく、色々なところにチャンスがもたらされたということで意義が大きいので、サミットを活かすことが必要。

・職員は頑張ったので慰労して欲しい。

西城局長

障がい者施設からのお菓子の件については、6月中下旬の議会や県民会議報告会において、精査し、修正したものをお示ししたい。

(以上)